

知性・情操・健康・友愛の調和のとれた発達を目指す

田辺中だより

No.3 令和4年6月3日発行

京田辺市立田辺中学校

京田辺市興戸北鉾立2-1番地

TEL:0774-62-0021 FAX:0774-62-5099

学校ホームページURL【<http://www.kvotanabe.ed.jp/nc21/tanabe-ih/htdocs/>】

梅雨の季節になりました

教頭 佐藤 寛

先月、各学年校外学習(1年生は校内学習)を無事終えることができました。平和について考え、伝統文化について学び、また、他人を思いやる心や社会のルールなどを学びました。さらに、普段の学校生活では感じられないことを友達や先生とのふれあいを通して、多くの人が成長したと思います。特に3年生は、人生の宝物の一つとして、いつまでも思い出を大切にしてください。私は中学時代の修学旅行の思い出を今でも覚えています。

さて、6月は、水無月(みなづき)ともいいます。水無月の由来には諸説ありますが、水無月の「無」は「の」を意味する連体助詞「な」であり「水の月」であるとする説が有力だそうです。

英語名では June。ローマ神話のユピテル(ジュピター)の妻ユノ(ジュノー)から取られ、ユノが結婚生活の守護神であることから、6月に結婚式を挙げる花嫁を「ジューン・ブライド」(June bride、6月の花嫁)と呼び、この月に結婚をすると幸せになれるといわれています。

ちなみに、6月3日はムーミンの日、6月30日はハーフタイムデー(1年の折り返しの日)だそうです。

田辺中学校にとって6月はどういう月なのでしょう。6月は教育相談月間です。担任の先生と学校や家庭での生活について話をし、よりよい学校生活を送ることができるようにしていきます。そして、教育実習生が来校する月でもあります。毎年この時期に、教員を目指している、皆さんの先輩でもある大学生が、実習に来ます。また、3年生にとって最後の大会である夏季大会が、陸上競技部を皮切りに始まります(今年度は5月28日に一部終わっています)。さらに、月末には1学期の期末テストがあります。このように様々な行事や取組があります。一人一人がしっかり目標を持ち、さらなる高みを目指し、充実した学校生活を送りましょう。

保護者の方においても、PTAの取組(PTA総会、庭園整備(事業部)、広報冊子「窓」作成に向けて(広報部)、交通安全指導(地区委員)など)が始まります。ご協力をお願いします。

今後の予定

6月1日(水)～	教育相談月間
6月6日(月)～10日(金)	学校公開週間
6月10日(金)	PTA庭園整備
6月15日(水)	PTA登校指導、一斉委員会
6月17日(金)	1年生熱中症予防教室
6月19日(日)	山城地方陸上競技大会
6月21日(火)	テスト期間部活動停止(～6月29日)
6月28日(火)29日(水)	期末テスト

1年生校内学習5月19日(木)

学校で1日「校内学習」を行いました。タブレットを活用しながら、体験型課題解決ゲームを学級対抗でおこないました。「真の仲間を作ろう」というめあてに対して、「真の仲間とは」「どうしたら真の仲間になれるのか」という課題を事前学習や当日の学習を通して解決するというものです。はじめのじゃんけん大会から大盛り上がり。



2年生校外学習5月19日(木)

2年生は校外学習に行ってきました。午前中は今出川にある西陣織会館で伝統工芸である漆芸を体験しました。実際に販売しているものと同じ材料を使って体験をさせていただきました。午後からは各班ごとに京都市内の文化財巡りへ。お天気もよく気温も上がりましたが、みんな事前にたてた計画どおりに動こうと一生懸命頑張っていました。



3年生修学旅行5月19日(木)～21日(土)

5月19日(木)～21日(土)の3日間3年生は九州(長崎方面)へ修学旅行に行ってきました。晴天にも恵まれ、ペーロン体験、平和公園での平和セレモニー、班別自主研修、太宰府天満宮での班別散策などクラスや班で充実した時間を過ごすことができました。学校に到着した時のみなの笑顔がとても素敵でした。



学校行事を含め学校生活の様子等を学校のホームページに随時更新しています。修学旅行の様子等ももう少しご覧いただくこともできます。「投票する」を押していただきますと学校の励みになります。よろしくお願いいたします。

綴喜地方中学校夏季体育大会陸上競技の部

5月28日(土)

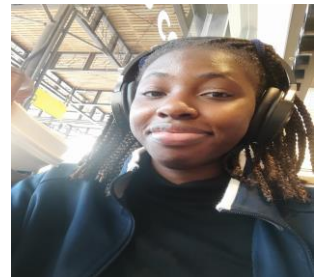
山城地方中学校陸上競技大会予選を兼ねて綴喜地方での大会が開催されました。陸上競技部の3年生にとっては最後のフィナーレにつながる大会です。

男女総合 優勝 (男子3位 女子優勝)



田辺中学校のALTのジャリカ先生に学校便りを通して外国の文化や他国から見た日本等についてご紹介いただいています。

3年生が修学旅行で訪れた長崎について書いていただきました。



The letter from Jalika

Hi everyone,

This year, the third year students went to Nagasaki in Kyushu! I am happy. I went to Nagasaki too. I went with my friend Claire. It was fun. It was easy to travel in Nagasaki. In Nagasaki there is the light-rail. It is a train that is outside and goes around the city like a bus. It comes very often and it is very cheap.

We went to the Atomic bomb museum.

Did you go there too? It was interesting.

It was sad. Many people died. Later, I went to Peace Park. We enjoyed seeing



many families at Peace Park.

My friend and I went around to the Nagasaki-Oura Christian museum, and Dejima.

It was very fun. I enjoyed learning about Christians living in Japan. It was

interesting. I went to Oura church. At Oura church, I learned about Japanese

Christians who were persecuted. During Edo period, people could



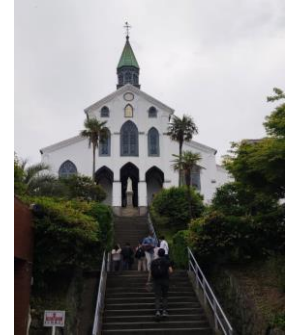
not be Christians. Many people

Japanese Christians had to hide

being Christian. I really enjoyed

Dejima. It was popular to sell

copper too.



In Dejima people made and sold porcelain cups and plates. Dejima is interesting because it was only for foreigners. So there was many foreign and Japanese fusion in food and clothing. It was fun area.

（日本語概要）＊わかりやすいように省略したり付け足したりしているところがあります。

今年は3年生が九州の長崎に（修学旅行で）行ってきました。私も友達のクレアと（ゴールデンウィーク期間に）行ってきました。とても楽しかったです。長崎は路面電車が走っているので市内めぐりがしやすいです。路面電車はバスのように街中を走っています。本数も多いし安い。私は長崎原爆資料館を訪れました。興味深いけれど悲しい場所です。多くの方々が亡くなりました。その後で平和公園にも行きました。たくさんの家族が楽しそうに過ごしている姿を見て改めて平和の大切さを感じました。大浦天主堂キリシタン博物館、出島にも行きました。とても楽しかったです。日本に暮らしていたキリスト教徒の方々について知りました。大浦天主堂で江戸時代に迫害されたキリスト教徒について学びました。江戸時代日本ではキリスト教徒であることを隠さなくてはならなかったということも知りました。出島も楽しかったです。銅製品を買うことができた。磁気の食器も売られていました。出島には外国人しかいなかったこともとても興味深かったです。食べ物や服装等日本と外国の文化が見事に融合している出島は本当に素敵でした。

補足説明

第二次世界大戦の末期である1945年8月9日、長崎市に原子爆弾が投下され、広島市に次いで原爆被災地となりました。歴史的な大惨禍に見舞われながらも、戦後、奇跡的な復興を遂げ、平和都市として生まれ変わった長崎。2019年には、38年ぶりにローマ教皇フランシスコが来県され、長崎から世界へ、平和への願いと祈りのメッセージを発信されました。

海外交易の窓口であった長崎では、1550年、フランシスコ・ザビエルが平戸を訪れたことにはじまり、南蛮貿易とともにやってきた宣教師たちによってキリスト教の布教活動が進められました。自らもキリスト教に改修する「キリシタン大名」も現れ、領民の多くもキリスト教を信仰し、南蛮文化が花開いていきました。その後禁教となり、信仰が発覚した者に対しては、激しい弾圧をし、棄教を強制し、禁制が徹底されていた中でもなお密かに信仰は受け継がれていったのです。